

自分たちの「かわ」を考えてみました

山口県と地元自治会、地域活動者、学識経験者の皆さんの協働による「みしま水辺の会ワークショップ」



架け替えが緊急の課題となっている三島橋
「みしま水辺の会」メンバーによる現地視察
メンバーは、河川改修案をグループに分かれて、さらに検討を加えました。



島田川に架かる「三島橋」は、平成10年に河床の洗掘により橋脚が危険な状態になったため、現在仮設橋で復旧されていますが、地元から多くの要望が寄せられるなど、その架け替えが緊急の課題となっています。橋の架け替えにあたっては、河川の将来計画に沿って実施する必要があります。また、最近の河川法の改正を踏まえ、治水（洪水に強い川）、利水（生活を支える水の確保）はもちろんのこと、環境にも配慮した護岸整備（自然環境の保全、生活環境の創出）が求められています。そこで、島田川を管理する山口県では、地元自治会や地域活動者、学識経験者が意見交換する「みしま水辺の会ワークショップ」を開催し、河川整備の素案『島田川三島地区水辺プラン』をとりまとめました。市民の皆さんに、その概要をお知らせします。このプランは、今後、事業主体である山口県により、三島地区周辺の島田川河川整備に活用される予定となっています。

自分たちで「かわ」づくりを考えます

ワークショップは、従来行政主体で行われていた公共事業などにおいて、事業そのものがよりよいものになるよう計画段階から地域住民などを交え、互いに議論しながら計画を策定していくものです。

このワークショップでは、JRR島

田駅のすぐ西側に位置する島田川の河川改修について、治水面の安全確保はもちろんのこと、環境面、維持管理も含めた「島田川三島地区水辺プラン」を作成しました。

自分たちの望む「かわ」はどんな川？

第一回ワークショップでは、み

ま水辺の会メンバーで現地の視察を行い、河川の改修により問題となるところなどを話し合いました。治水安全性を懸念する声があがる一方、環境面・利用面においても、改修によりサクラ並木がなくなってしまうことに対する問題や、環境教育などで利用の多い河原がなくなってしまうのではないかなど、多くの意見が出され、次回への課題となりました。

自分たちの「かわ」づくり作業

第二回ワークショップでは、これらの課題を踏まえて作成された河川改修案をグループに分かれ、さらに吟味していききました。その後、各グループでまとめられた意見を発表しあい次回への課題となりました。

ここでは、サクラ並木による踏切の見通しの問題や新たな自然環境の創出への試みなど、プランとりまとめにおけるより細やかな意見が多く出され、最終プランのイメージがより具体化してきました。

自分たちの望む「かわ」はこうなります

第三回ワークショップでは、前回までの意見をふまえた最終案が提示

されました。治水面の安全確保を最優先しなければならぬため、プランの中に取り込むことが出来なかった意見もありましたが、メンバーの意見の多くはプランに反映され、最終的なプランが完成しました。ただし、工事までの課題となった事項もあり、今後、地元説明会などを開催し、地域との対話を続けていくことになりました。今回のワークショップにおける意見を集約した整備イメージは、下図のとおりです。

なお、そのほか皆さんからあがった意見・今後の課題などを一部紹介します。

人が多く集まる場所なので、トイレをぜひ設置してほしい。ただし、維持管理をどのように行っていくか話し合わなければならぬ。

散策や河川を利用したイベントなど、河川を楽しむことをやっていきたい。

水辺の会をこの地区だけでなく、流域全体にネットワークを拡げて、維持管理やその他の活動をしたい。

工事の見学会、工事完成時のイベントなどを計画してほしい。

この整備に関して、または、この付近に生息している生物に関する案内看板を設置してほしい。

